

青年招へい事業

韓国

[交流レポート]

청년 초청 사업

한국

[교류 보고서]

JICA LIBRARY



J 1154066 (3)

1998

国際協力事業団

JICA
110
36
TAY
BRARY

青招
J R
99-06

信頼と友情への第一歩

신뢰와 우정에의 첫걸음

平成10年度韓国青年招へい事業

1998년도 대한민국 청년 초청사업

開講式

개강식



国際協力事業団より歓迎のあいさつ
국제협력사업단으로부터 환영인사말씀



いよいよプログラムがスタート
드디어 프로그램이 시작

共通プログラム

공통 프로그램



今日どこへ行きましょうか
(体験的日本語学習)
오늘은 어디로 갈까요?
(체험적 일본어학습)



熱心な質疑は、途切れることなく
열띤 질문은 끊일 줄 모르고



長居陸上競技場にて
나가이 육상경기장에서



楽しく記念撮影
즐겁게 기념촬영

分野別都内プログラム
분야별 도내 프로그램



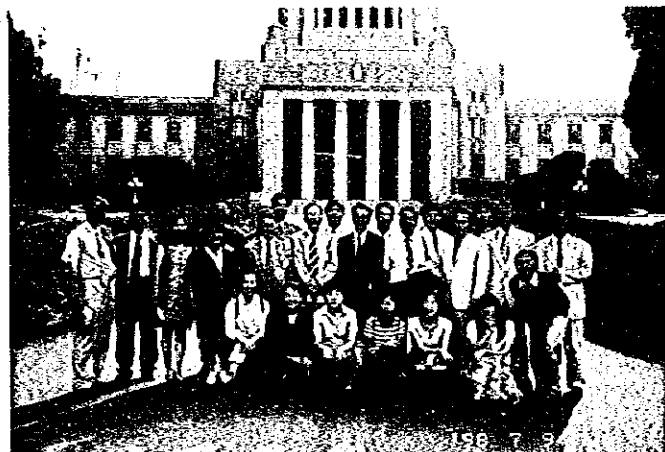
講義を受ける青年
강의를 받는 청년



学芸大学を訪問
학예대학 방문



子どもたちとすっかりうちとける青年
완전히 허물이 없어진 어린이들과 청년



国会議事堂にて
국회의사당에서

ホームステイ
홈스테이



日本に暮ができました
일본에 새 자매가 생겼어요



衣装を交換して記念撮影
의상을 바꿔 입고 기념촬영



私の大事な家族です
나의 소중한 가족이에요

合宿セミナー
합숙 세미나



ディスカッションには力が入りました
디스커션에 힘을 기울이고 있어요



一緒に汗を流したバレーボール
같이 땀을 흘렸던 배구시합



思い出多き合宿セミナー
추억 가득한 합숙세미나



素敵な友人ができました
멋진 친구가 생겼어요



会話がはずむ両国青年
이야기에 활기찬 양국의 청년

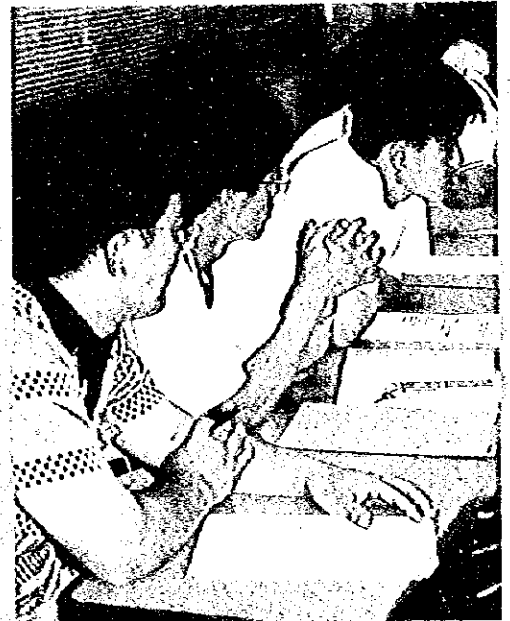
評価プログラム 【帰国前セミナー】

평가 프로그램

귀국 전 세미나



日本滞在で得たことを発表し合う青年
일본체재에서 얻은 것을 서로 발표하는 청년



皆、目が真剣です
청년들의 진지한 눈초리

閉講式・歓送会

폐강식·환송회



思い出を韓国に持ち帰ろう
추억을 간직하고 한국으로



国際協力事業団より参加証の授与
국제협력사업단으로부터 참가증 수여



それぞれの思いを語り合う
서로의 추억들을 나누며



プログラムが無事に終了
프로그램을 무사히 마치고



貴重な体験をありがとう
귀중한 체재에 감사하며

青年招へい事業

청년 초청 사업

日本語編・일본어편.....	3
韓国語編・한국어편.....	25



1154066 (3)

青年招へい事業

はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、アセアンをはじめ、アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国・中近東から、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に約1カ月間招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

招へい国は当初アセアン6カ国でしたが、現在では太平洋諸国・地域、ミャンマー、中国、韓国、南西アジア諸国、モンゴル、アフリカ諸国、カンボディア、ラオス、ヴェトナム、中南米諸国、サウディ・アラビアおよび中央アジア諸国が加わり大きな広がりをもってまいりました。

平成10年度は、1,592名の青年を受け入れ、昭和59年度より平成10年度までの15年間で、日本を訪問したアジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国・中近東の青年は18,194名に達しました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年、およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。

なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただく予定です。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねて厚くお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義なプログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成11年3月

国際協力事業団
研修事業部
部長 金子節志

目 次

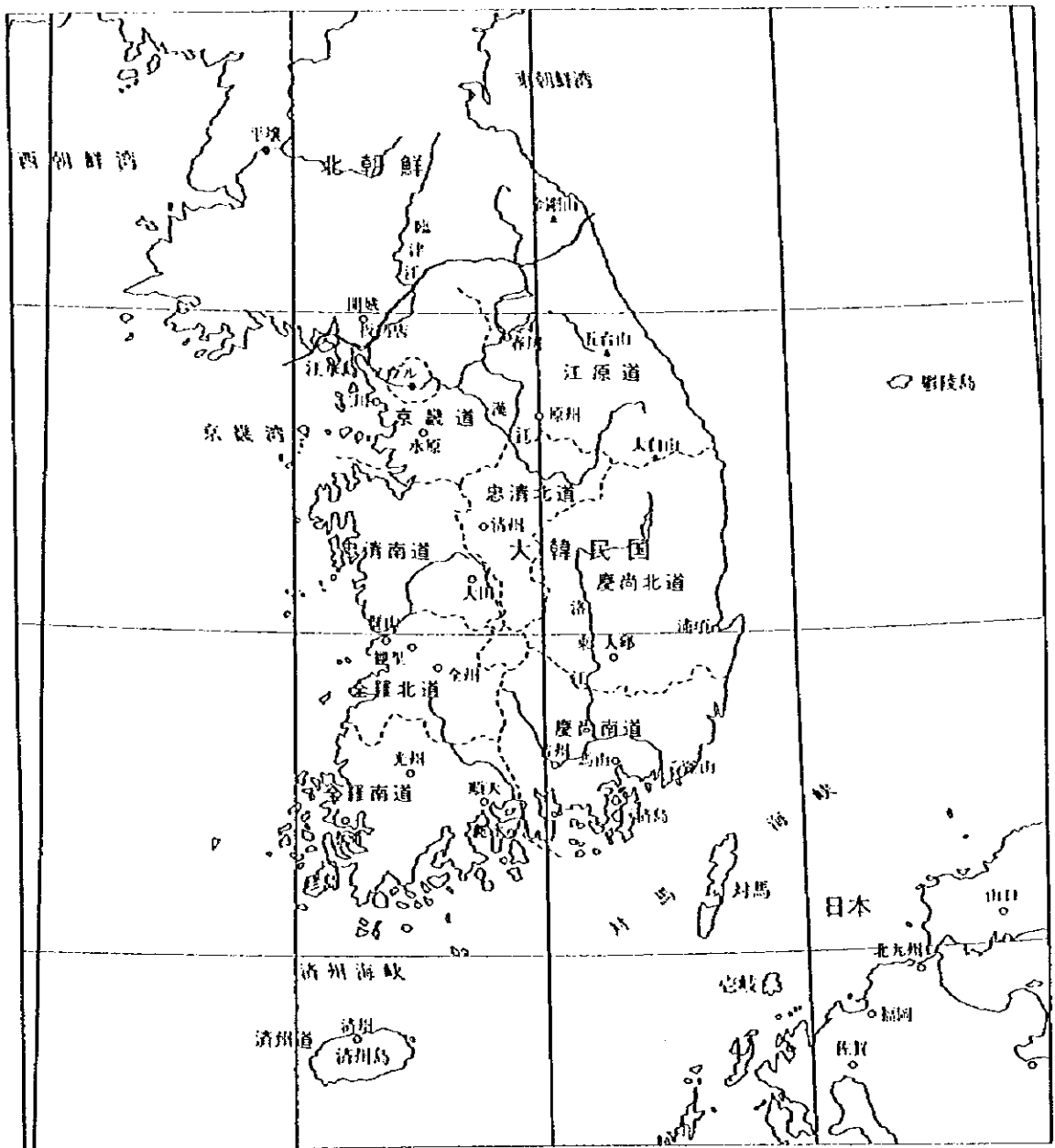
はじめに

1. 韓国青年招へい事業

- (1) 事業の概要.....9
- (2) 招へい実績.....10
- 2. 招へい青年の印象.....13
- 3. 合宿セミナー参加日本青年の声.....15
- 4. ホストファミリーの思い出.....17

〈実績資料〉

- 1. 韓国青年招へい実績一覧.....21
- 2. 平成10年度青年招へい実績一覧.....22



1. 韓国青年招へい事業

(1) 事業の概要

1) 事業の目的

21世紀に向けて、日本と韓国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う韓国の青年をわが国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

2) 実施方法

(a) 招へい人数

平成10年度は、100名の青年を同時期に受け入れる。

(b) 招へい対象者

以下の分野の指導的立場にある18～35歳の青年。

(i) 青年指導者・公務員 25名

青少年活動者及び関係者、スポーツ・文化・社会奉仕等団体関係者。

(ii) 勤労青年（技術系） 25名

企業等勤労者、公務員、ジャーナリスト。

(iii) 教員（中学校） 25名

教育機関教員、教育関係公務員。

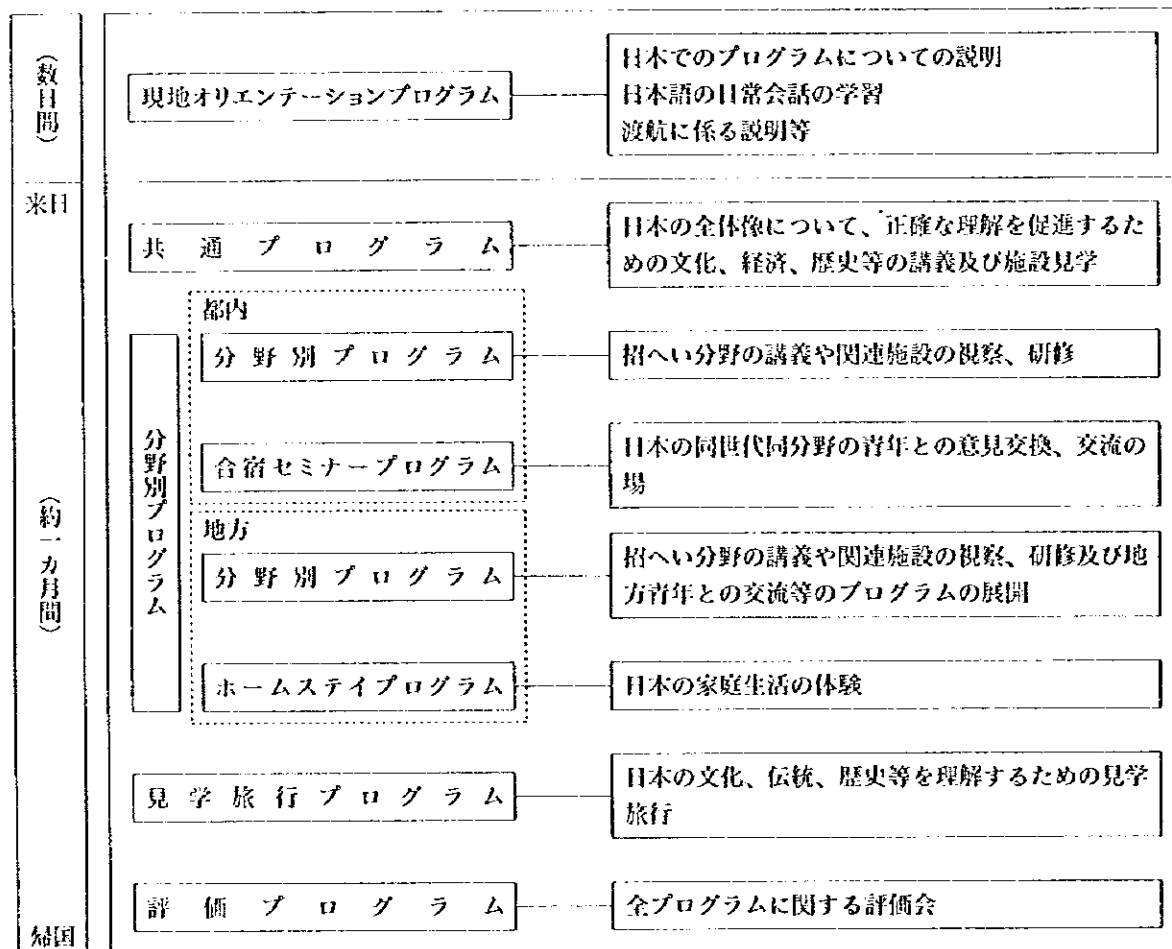
(iv) 学生（理工系） 25名

大学生、大学院生、各種学校等の学生。

(c) 招へい期間および時期

7月1日から7月28日までの約1カ月間。

3) プログラム概要

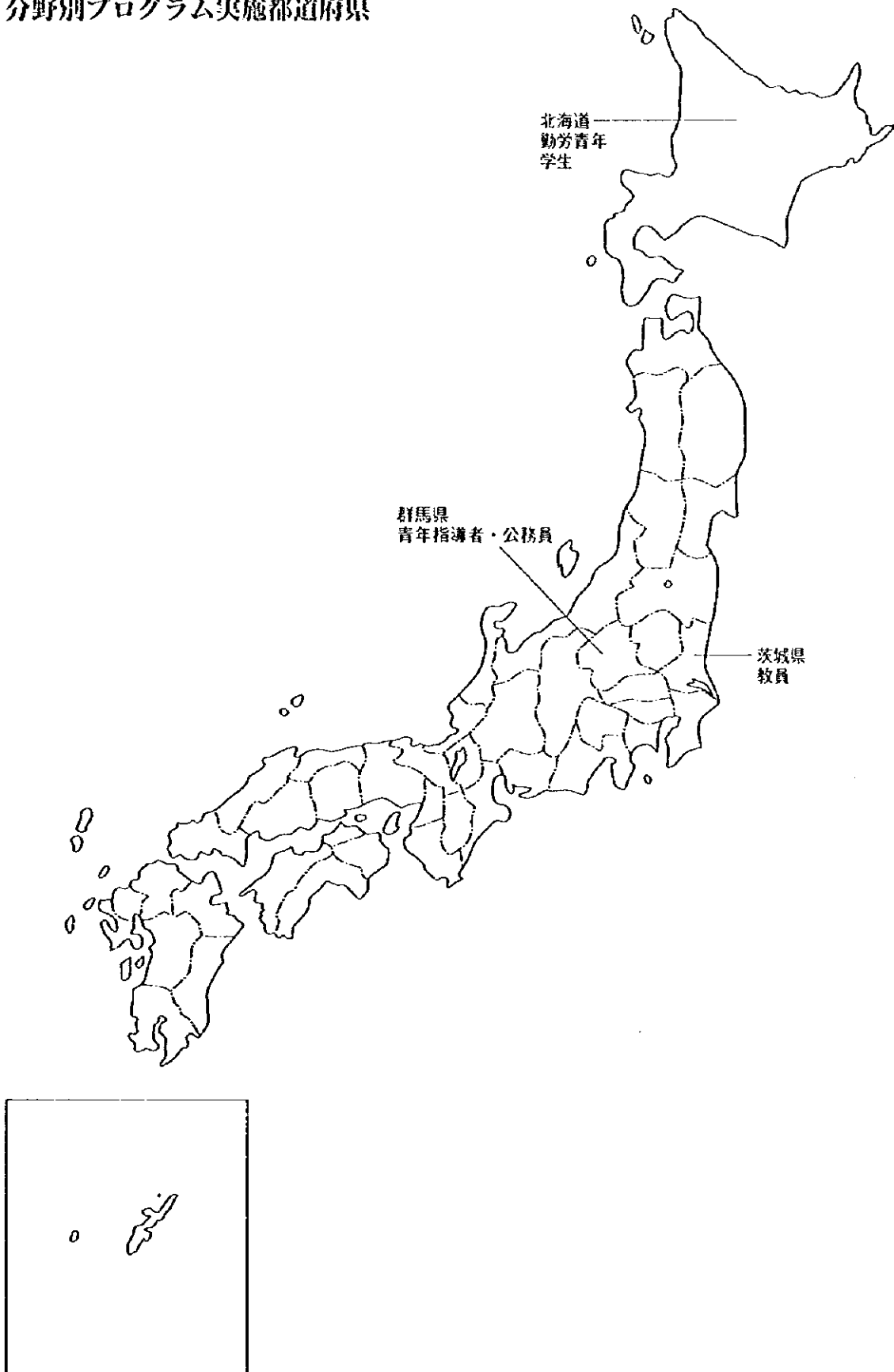


(2) 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県
青年指導者・公務員	24	日本ユースホステル協会	群馬
勤労青年(技術系)	25	勤労厚生協会	北海道
教員(中学校)	25	国際交流サービス協会	茨城
学生(理工系)	25	世界青少年交流協会	北海道

*共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県



2. 招へい青年の印象

新しいもう一つの始まり

金 珍英
(青年指導者・公務員グループ)

日本での28日間の夏の出来事は、カメラのフィルムの中や、それぞれの心の中に姿を隠している。初めて出会い、ぎこちない顔だった私たちグループの参加者も、今や親しい友人となって記憶されるだろう。時には、疲れてホームシックになったこともあったが、お互いの健康を気づかい、一生懸命励ましてくれた同僚のお陰で異国での1カ月を無事に終えることができた。

日本の青年との合宿セミナーの3日間というのは、あまりに短くて残念だった。言葉は通じなくても、お互いを思いやり学ぼうとする姿勢は、私たちに“若さ”という共通分母があったからだろう。

28日間は決して短い時間ではなかった。疲れてプログラムに参加する意欲も薄れ、積極的になれなかったこともあった。

新しいもう一つの始まりのために、プログラムの内容や主催者に対する評価だけでなく参加者の姿勢に関する反省が今後の貴重な資料になることを願っている。

青年招へい事業について

任 景峻
(勤労青年グループ)

日本に滞在して、科学技術庁での講義や埼玉新都心視察等を通じて、日本人の緻密さや長期的な計画を立てるところなど、私たちが学ぶべきだと感じた。

合宿セミナーでは、日本と韓国の青年たちは言語以外は何ひとつ変わらないことが分かった。

リコーの工場視察で感じたのは、給料よりも会社、会社よりは社員(人)優先、ということだった。

帯広では、温かい配慮をして、計画的に行き届いたスケジュールを立ててくれた帯広青年会議所の青年たちに、昔からの親友のような気がして、故郷に来たかのような錯覚を覚えるほどだった。

広島では、多くの生命を奪った“戦争”を目の当たりにして言葉を失った。“戦争”という言葉を二度と口にしたくない思いで広島を後にした。心から犠牲者の冥福を祈る。

今後、日韓両国の青年たちが手を取り合い、真のパートナーとなることを期待する。互いにそのための努力を惜しんではならない。

短い出会いと長い余韻

郭 美京
(教員グループ)

私は、環境への適応能力があまりないために緊張して不眠に悩むのではないかという不安を抱えたまま、今回の青年招へい事業に参加することになった。それに加えて、私は旅行をするにあたって悩みが一

つある。それは腰痛だ。そして、心配していた私の腰痛は日本に来てから続いていた不眠によりますます悪化し、いよいよホームステイを明日に控えて、プログラムを休まざるを得なくなってしまった。不安だったホームステイを腰痛を言い訳にして逃げようとした。しかし、普段から新しいものに対して好奇心旺盛な私は、結局、腰痛を抱えてホームステイに参加した。私が滞在した家庭は、義父母と同居していた。その家の玄関を入ったその瞬間から、私は自分の家に帰ったような気楽な気分になれて安心した。庭から摘んできた一輪の黄色い花、整頓された家、真心を込めて作ってくれた食事。そして、英語、日本語、漢字を駆使して夜遅くまで語り合い、お互いについて知ることができた。また私が美術の教師ということで、いろいろな美術館や美しい景色を見せようと気をつけてくれた。

3日間のホームステイを通じて、言葉が違うだけで互いの心は一つだということを確認できた。また、辛かった腰痛もなくなり、温かい愛情だけが私の心に残り、ホストファミリーも私も別れの寂しさに涙があふれた。

私は心の通い合える素晴らしい日本の友人に出会えた。互いを理解し、心を通い合わせた私たちの出会いは小さな出来事に過ぎないが、韓日間の友情の架け橋を一層しっかりしたものにするうえで役に立つことを心から願う。

日本人の親切と責任感

李 相煥
(学生グループ)

日本人といえば、以前から“親切”という言葉がまず思い浮かんだ。直接自分の目で日本を見た今、その理由が分かるような気がする。

私の目に映る日本人の特徴は、時間に対する正確さと仕事に対する責任感であった。親切ということは、責任を果たしていることの手段のようでもある。タクシーの運転手がわざわざ車から降りてきて、客の荷物を下ろしてあげたり、商店の店員が小さなものひとつにも気を使っている姿は、日本人特有の責任感からくるものであるようだ。

自分自身ができる最大限のサービスを提供することが、結局のところ、“親切”という形で現れるのではないかと思う。また、この責任感が、今日の先進国日本を創り出した原動力であったのではないだろうか。

このような責任感を基本とし、信用を高く評価する日本人の姿は、間違いなく学ぶに値すると考える。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

ムグンホワとさくらとの出会い

小島 幸子
(公務員)

合宿セミナーに参加する前は「近くて遠い国・韓国」のイメージが強く、言葉や文化の違いなど不安な気持ちでいっぱいだった。しかし、韓国の青年はとても優しく積極的で、すぐにうち解けることができた。3日間寝食を共にした彼らに「楽しかった」と言われると、私自身もうれしかった。

短い時間ではあったが、韓国と日本の青年が個人個人の交流を深められたことは、お互いの国を理解する第一歩になったと思う。

人と人との出会いはいろいろあるが、やはり直接顔を合わせ触れ合うことが何より大切だ、と実感した。

一生の宝となる素晴らしい時を過ごすことができた。またこのような機会があったらぜひ参加したいと思う。

素敵な出会いにコンペ(乾杯)

小川 哲也
(会社員)

「コンペ(乾杯)！」

夜になると聞こえてくる懇親会の始まる合図の声。言葉は通じなくても理解し合いたいという気持ちが自然と笑い声を生み、歌声へと変わっていく。お互

いを理解するには、決して十分な時間ではなかったが、友となり未来を共に築いて行こうとするには大きなきっかけとなり得た。

合宿セミナーという機会を得て、私たちは互いの文化や宗教、職業観など様々な事柄について話し合った。彼らの日本を学ぼうとする真摯な姿勢や、物事に対する意識の高さから、私は多くのことを学んだ。

あっという間の3日間ではあったが、私たちは韓国での再会を誓い、しほしの別れを告げた。次に会う時、彼らはどんな笑顔を見せてくれるだろうか。

隣同士、友から学ぶ“虚往実帰”

—瀬 普—
(水泳インストラクター)

韓国と日本、似ているかと思えば違いも目立つ。けれどやっぱり似ているな、と思う隣同士。私は合宿セミナーに参加するのをとても楽しみにしていた。しかし、交流を図り、互いを深く理解し合うにはあまりにも時間が短い。

彼らと共に過ごして、様々なことが印象に残った。教員グループということもあり、教育に対する熱意ある姿勢が強く感じられた。

つたないスーパーバイザーで申し訳なかったが、教員として教育の現場への鋭いまなざしを忘れない心意気に触れられたとてもいい機会だった。

フリータイムには、水球を始めスポーツの話で盛り上がった。

最終日の夜は、新宿の韓国料理店に出かけた。日本人は私一人ということもあって、皆が韓国の食事の作法や礼儀を教えてくれ、最高の時を過ごした。

新しい歴史のために

須田 恵
(大学院生)

2泊3日。短いようで長かった……とは言えない。本当に短かった。しかし、私たちの歴史を開始するにあたっての素晴らしい開幕式にはなったと思う。

最終日の夜には、どうやって友達になるかという話に花が咲いた。お互いに何らかの先入観があるのだが、それはいったいなんなのか、という話に始まり、あからさまな話まで、旧知の仲間同士が打ち明け話をしているような、早すぎる朝を迎えた。私たちが抗しても抗しきれない世の中の大きな流れを憂い、それでも私たちという存在があるではないか、と希望を分かち合っていた。

これから私たちは互いの国の社会に対して責任を負う個人となっていく。その助走段階の今、大きなエネルギーを得ることができた。

4. ホストファミリーの思い出

初めて見る御輿を写真に

市塚 守
(群馬県)

私は、多少韓国語ができるので、今までに4人の韓人大学生のホストファミリーを引き受けた。今回我が家に滞在したのは、釜山市役所で家庭福祉を担当している金さんという、静かな女性だった。

滞在2日目に、私の所属する群馬ハンダール愛好会の会員の家にホームステイした韓国の青年たちと一緒に、水上温泉の露天風呂やその近くのガラス工場に行った。この日は、隣の藤岡市の夏祭りだったので、夜、娘たちと祭りを見に行った。金さんは、御輿や山車を見るのが初めてだったので、熱心に写真を撮っていた。

3日目は、藤岡の瓦屋を訪ねたり、高崎の街を案内しながら買い物の手伝いをしたりして過ごした。

ところで、金さんからまだ手紙が届かないのが寂しい限りである。

ほっとしたホームステイ

高橋 祐子
(茨城県)

お互いに言葉が分からない、という不安を抱いてホームステイは始まった。しかし初対面の時から、金賢淑氏（韓国では姓名に氏をつけて呼ぶそうだが）、とても気配りのできる、奥床しささえ感じさせる方だった。

彼女は音楽と美術の先生で、そういう関係のところをとっても興味深げに、ゆっくり時間をかけて見学した。彼女と共通の言葉を話すことができたのもっといろいろ話ができたと、と残念に思った。幸い、娘とは年が離れているにもかかわらず、友達同士のようにおしゃべりし、笑い合っていた。もちろん、辞書を見ながら、単語だけの会話であったが。彼女が我が家に滞在した間、なんとか楽しく無事に過ごすことができて、ほっとした。

礼儀を気づかせてくれてありがとう

ト部 信臣
(北海道)

家に入る時、靴を揃えて入った。パークゴルフに行った時、周りの人にバックを渡してから自分のを持つようにしていた。

このような、相手の次に自分、という行動は、我が家に2日間ホームステイした韓国の青年、李鐵煥さんには、たびたび見られた。

夜の9時頃、李さんが外へ出ていった。星空でも見に行ったのかなあと思っていたら、タバコを吸いに行ってきたというので、びっくりした。わざわざ外へ行かなくても部屋の中で吸ってもいいと言ったら、「韓国では40歳になるまでは、部屋の中や両親の前ではタバコを吸わない」という彼の返事。私はまた、びっくりした。

北海道の古い民謡「ソーラン節」と若者の「よさこいソーラン」をテープで一緒に聞いた。韓国の若者も、昔の歌は歌わなくなってきていると言っていた。しかし、この青年は昔の韓国と今の韓国を礼儀で繋ぐ、と思った。

実績資料

1. 韓国青年招へい実績一覧

●平成6年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者	25	日本ユースホステル協会	沖 縄	沖 縄	沖縄県ユースホステル協会
教員	25	青年海外協力協会	北海道	北海道	北海道青年海外協力隊OB会道東支部
勤労青年	25	勤労厚生協会	埼 玉	関 東	上尾市国際交流推進委員会
学生	25	世界青少年交流協会	新 潟	関 東	新潟県世界青年友の会

●平成7年度（98名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者・公務員	25	国際交流サービス協会	新 潟	関 東	新潟県国際交流協会
勤労青年	23	勤労厚生協会	埼 玉	関 東	上尾市国際交流推進委員会
教員	25	日本ユースホステル協会	福 井	北 陸	福井県国際交流協会
学生	25	世界青少年交流協会	秋 田	東 北	秋田県世界青年友の会

●平成8年度（100名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者・公務員	25	日本ユースホステル協会	愛 媛	四 国	愛媛県国際交流協会
勤労青年	25	勤労厚生協会	滋 賀	関 西	滋賀県青年団体連合会
教員	25	国際交流サービス協会	茨 城	筑波国際センター	平成8年度茨城県外国青年招へい事業実行委員会
学生	25	世界青少年交流協会	秋 田	東 北	秋田県国際交流協会

●平成9年度（97名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者・公務員	25	日本ユースホステル協会	長 崎	九 州	長崎県ユースホステル協会
勤労青年(事務系)	24	勤労厚生協会	北海道	北海道	滝川国際交流協会
教員(小学校)	23	世界青少年交流協会	茨 城	筑波国際センター	茨城県外国青年招へい事業実行委員会
学生(人文・社会系)	25	青年海外協力協会	熊 本	九 州	熊本県青年海外協力協会

●平成10年度（99名）

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者・公務員	24	日本ユースホステル協会	群 馬	関 東	群馬県国際交流協会
勤労青年(技術系)	25	勤労厚生協会	北海道	北海道国際センター	滝川広青年会議所
教員(中学校)	25	国際交流サービス協会	茨 城	筑波国際センター	茨城県外国青年招へい事業実行委員会
学生(理工系)	25	世界青少年交流協会	北海道	北海道国際センター	滝川国際交流協会

* 共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

2. 平成10年度青年招へい実績一覽

受入時期 陣・人数	国名	分野	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
5月6日 6月2日 1陣 49人	マレーシア マレーシア	経済(準国際) 教育	24 25	青少年育成国民会議 日本ユースホステル協会	滋賀 北海道	滋賀県青年団体連合会 とまこまい国際交流センター
5月13日 6月9日 2陣 66人	インドネシア インドネシア インドネシア	経済A 経済B 教育	20 24 22	国際交流サービス協会 勤労厚生協会 青年海外協力協会	栃木 群馬 山形	栃木県青年会館 アセアン青年招へい事業実行委員会 山形県青年海外協力協会
5月20日 6月16日 3陣 34人	シンガポール シンガポール	経済A 経済B	17 17	日本経済青年協議会 勤労厚生協会	大阪 北海道	姉妹太平洋人材交流センター 千歳国際交流協会
5月20日 6月16日 4陣 100人	中 国 中 国 中 国 中 国	青年指導者 経済青年 公務員 教員	25 25 25 25	青少年育成国民会議 ユースワーカー能力開発協会 世界青少年交流協会 国際交流サービス協会	沖 縄 石 川 徳 島 富 山	①沖縄県青少年育成国民会議 小松市国際交流協会 徳島県日中青年交流協会 ②とやま国際センター
5月27日 6月23日 5陣 111人	ASEAN混成 ASEAN混成 ASEAN混成 ASEAN混成	環境保全 社会福祉 保健医療 行政	29 28 30 24	日本経済青年協議会 札幌国際プラザ 国際看護交流協会 青少年育成国民会議	北海道 北海道 群馬 福岡	釧路市海外青年招へい事業実行委員会 ①札幌国際プラザ ②国際看護交流協会 ③九州・山口経済連合会
6月10日 7月7日 6陣 35人	ブルネイ ラオス	社会開発 農林水産	15 20	日本国際生活体験協会 高知県国際交流協会	広島 高知	しょうばら国際交流協会 ①高知県国際交流協会
6月25日 7月22日 7陣 39人	シンガポール シンガポール	教育 社会開発	20 19	日本ユースホステル協会 ユースワーカー能力開発協会	香 川 沖 縄	香川県海外派遣友の会 ①沖縄県国際交流財団
7月1日 7月28日 8陣 99人	韓 国 韓 国 韓 国 韓 国	経済(準国際) 勤労青年(準国際) 教員(中学校) 学生(理工系)	24 25 25 25	日本ユースホステル協会 勤労厚生協会 国際交流サービス協会 世界青少年交流協会	群馬 北海道 茨 城 北海道	①群馬県国際交流協会 ②帯広青年会議所 茨城県外国青年招へい事業実行委員会 ③滝川国際交流協会
7月8日 8月4日 9陣 112人	マレーシア マレーシア マレーシア インドネシア インドネシア	経済(準国際) 農業開発 林業 農業 社会開発	24 15 24 25 24	日本ユースホステル協会 青年海外協力協会 豊川市国際交流協会 岩手県国際交流協会 青少年育成国民会議	埼 玉 大 分 愛 知 岩 手 熊 本	上尾市国際交流協会 大分県海外協会 ①豊川市国際交流協会 ②岩手県国際交流協会 熊本県青年海外協力協会
7月15日 8月11日 10陣 50人	ヴィエトナム ヴィエトナム	経済 農業	25 25	ユースワーカー能力開発協会 青年海外協力協会	兵 庫 和歌山	①神戸国際協力センター ②和歌山県青少年育成協会
7月15日 8月11日 11陣 100人	中 国 中 国 中 国 中 国	産業基盤整備 経済開発 地域振興 人材育成	25 25 25 25	日本国際協力センター 勤労厚生協会 世界青少年交流協会 ユースワーカー能力開発協会	岡 山 三 重 長 崎 北海道	①岡山県国際交流協会 ②三重県国際交流協会 長崎県世界青年友の会 十勝インターナショナル協会
8月19日 9月15日 12陣 69人	タ イ タ イ タ イ	経済A 経済B 農業	20 24 25	日本経済青年協議会 勤労厚生協会 日本青年団協議会	鹿児島 愛 知 岡 山	①鹿児島県国際交流協会 ジャパンヤングサークル東海支部 ②岡山県青年館

受入時期 種・人数	国名	分野	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
8月19日 ↓ 9月15日 13陣 45人	フィリピン	経済A	20	日本国際協力センター 青年海外協力協会	香 川 石 川	徳香川県国際交流協会 徳石川県国際交流協会
		農業	25			
8月26日 ↓ 9月22日 14陣 29人	バブア・ニューギニア	公務員	10	世界青少年交流協会 青年海外協力協会	新 潟 静 岡	徳新潟県国際交流協会 沼津国際交流協会
		教員	19			
9月23日 ↓ 10月20日 15陣 30人	ブータン/モルディブ	系属(仲談員)	10	国際交流サービス協会	佐 賀	佐賀ユネスコ協会
		ネパール	10	日本国際協力センター	長 野	(徳)駒ヶ根青年会議所
		スリ・ランカ	10	世界青少年交流協会	島 根	島根県国際交流青友会
10月7日 ↓ 11月3日 20人	サウディ・アラビア	系属(仲談員)	20	青年海外協力協会	福 島	にほんまつ地球市民の会
10月14日 ↓ 11月10日 16陣 92人	アフリカ英語圏	女性教員	21	青少年育成国民会議	福 井	武生市国際交流協会
	アフリカ仏語圏	女性教員	24	世界青少年交流協会	静 岡	徳静岡県国際交流協会
	アフリカ英語圏	理数科教員	24	大阪府国際交流財団	大 阪	徳大阪府国際交流財団
	アフリカ仏語圏	理数科教員	23	青年海外協力協会	青 森	青森県青年海外協力協会
11月11日 ↓ 12月8日 17陣 59人	太平洋混成	公務員	24	日本経済青年協議会	徳 島	徳島県青年海外協力協会
	太平洋混成	教員	23	日本国際生活体験協会	愛 媛	徳愛媛県国際交流協会
	フィジー	公務員	12	国際交流サービス協会	福 岡	福岡県海外青年招へい事業実行委員会
11月18日 ↓ 12月15日 18陣 60人	ミャンマー	教育	20	日本国際協力センター	秋 田	秋田県世界青年友の会
	バングラデシュ	系属(仲談員)	20	青年海外協力協会	京 都	(徳)青年海外協力協会近畿支部
	パキスタン	系属(仲談員)	20	日本ユースホステル協会	宮 城	宮城県ユースホステル協会
11月25日 ↓ 12月22日 19陣 58人	インド カンボディア	系属(係員)	28	世界青少年交流協会	岐 阜	岐阜県世界青年友の会
		経済	30	青少年育成国民会議	兵 庫	徳兵庫県青少年本部
11月25日 ↓ 12月22日 20陣 109人	ASEAN混成	教育	25	愛知県国際交流協会	愛 知	徳愛知県国際交流協会
	ASEAN混成	経済1	29	日本経済青年協議会	鳥 取	とっとり青友会
	ASEAN混成	経済2	30	勤労厚生協会	山 口	徳山口県国際交流協会
	中央アジア混成	経済	25	青少年育成国民会議	北 海 道	北海道YMCA
1月13日 ↓ 2月9日 21陣 97人	タ イ	教育	22	日本国際協力センター	山 梨	(徳)青少年育成山梨県民会議
		社会開発	25	国際交流サービス協会	大 阪	徳大阪府青少年活動財団
	ヴィエトナム	公務員	25	日本ユースホステル協会	福 島	福島県青年海外派遣友の会
		教育	25	ユースワーカー能力開発協会	宮 崎	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部
1月13日 ↓ 2月9日 22陣 80人	フィリピン	教育	22	日本国際生活体験協会	愛 媛	愛媛県青年海外協力協会
	フィリピン	社会開発	26	日本ユースホステル協会	石 川	徳石川県ユースホステル協会
	フィリピン	経済B	22	青少年育成国民会議	千 葉	徳千葉県国際交流協会
	モンゴル	勤労青年	10	世界青少年交流協会	山 口	世界青年徳山友の会
1月20日 ↓ 2月16日 23陣 49人	中南米混成	社会福祉	22	世界青少年交流協会	岡 山	岡山県世界青年友の会
	中南米混成	中学校教育	27	青年海外協力協会	沖 縄	徳沖縄県国際交流財団
合計	71グループ 110カ国・地域 1,592名	IIIASEAN 6 カ国(74) ミャンマー(20) 太平洋14カ国・地域(88) 中国(200) 韓国(99) 南西アジア7カ国(98) モンゴル(10) アフリカ49カ国(92) インドシナ3カ国(150) 中南米21カ国(49) サウディ・アラビア(20) 中央アジア5カ国(25)				

청년 초청 사업

머 리 말

「청년초청사업」은 국제협력사업단 (JICA) 이 개발도상국을 대상으로 실시하는 기술협력의 일환으로 아세안을 비롯하여 아시아·태평양·아프리카·중남미제국·중근동으로부터 장래의 국가전설을 담당하게 될 청년들을 전문분야별로 약 일개월동안 일본에 초청하여 각분야에 관한 전반적인 이해는 물론, 홈스테이 가족들과의 폭넓은 교류를 통하여 상호이해를 돈독히 하고 신뢰와 우정을 배양하는 것을 목적으로 하는 사업입니다.

초청국은 처음에는 아세안 6개국에 국한되어 있었으나, 현재는 태평양제국·지역, 미얀마, 중국, 한국, 남서아시아제국, 몽골, 아프리카제국, 캄보디아, 라오스, 베트남, 중남미제국, 사우디 아라비아 및 중앙아시아 제국으로 점차 확대되어 가고 있습니다.

1998년도에는 1,592명의 청년을 초청하여 1984년도부터 1998년도까지 15년간 일본을 방문한 각국의 청년은 18,191명에 이르고 있습니다. 이것은 관계자 여러분의 협력과 우정어린 지원이 있었던 덕분이며 마음속 깊이 감사의 말씀을 올리는 바입니다.

본 보고서는 초청청년 합숙세미나에 참가하였던 일본청년 및 홈스테이를 받아주신 전국의 호스트캐발리 여러분들이 보내주신 감상문을 중심으로, 초청청년들의 체재기록을 엮은 것입니다. 이 보고서가 본사업의 보다 큰 발전을 위한 지침서가 되고 또한 여러분의 좋은 추억이 되었으면 하는 바램입니다.

본 보고서는 급년도에 참가하신 모든 초청청년 및 각국의 관계자 여러분들께도 보내드릴 예정입니다.

마지막으로 마음이 훈훈해지는 감상문과 의견을 보내주신 분들, 관계자 여러분들께 거듭 깊은 감사를 드리며, 청년초청사업이 더욱더 뜻깊은 프로그램이 될 수 있도록 앞으로도 많은 협력을 부탁드립니다.

1999년 3 월

국제협력사업단
연수사업부
부장 가네코 다카시

차 례

머리말

1. 대한민국 청년 초청사업

(1) 사업의 개요..... 31

(2) 사업 실적..... 32

2. 초청 청년 감상문..... 35

3. 합숙세미나 참가 일본청년의 말..... 37

4. 홈스테이 가정이 느낀 인상..... 39

<실적자료>

1. 대한민국 청년 초청사업 실적 일람표 43

2. 1998년도 청년 초청사업 실적 일람표 41

1. 대한민국 청년 초청사업

(1) 사업의 개요

1) 목적

21세기를 향하여, 한국과 일본의 우호와 협력관계를 보다 확고하고도 일찬 관계로 만들기 위해, 미래의 국가 건설을 담당하게 될 한국청년을 일본에 초청하여, 일본의 동세대 청년들과의 교류를 통해 상호이해를 돈독히 하고, 참된 우정과 신뢰를 배양하는 것을 목적으로 한다.

2) 실시 방법

(a) 초청 인원수

1998년도는 100명의 청년을 동시에 초청한다.

(b) 초청 대상자

아래 분야에서 지도적 위치에 있는 18~35세의 청년.

- (i) 청년지도자·공무원 25명
청소년활동자와 관계자, 스포츠·문화·사회봉사 등 단체관계자
- (ii) 근로청년(기술계) 25명
기업 등 근로자, 공무원, 자넨리스트
- (iii) 교원(중학교) 25명
교육기관 교원, 교육관계 공무원
- (iv) 학생(아공계) 25명
대학생, 대학원생, 각종 학교 등의 학생

(c) 초청기간 및 시기

7월 1일부터 7월 28일까지 1개월간

3) 프로그램 개요

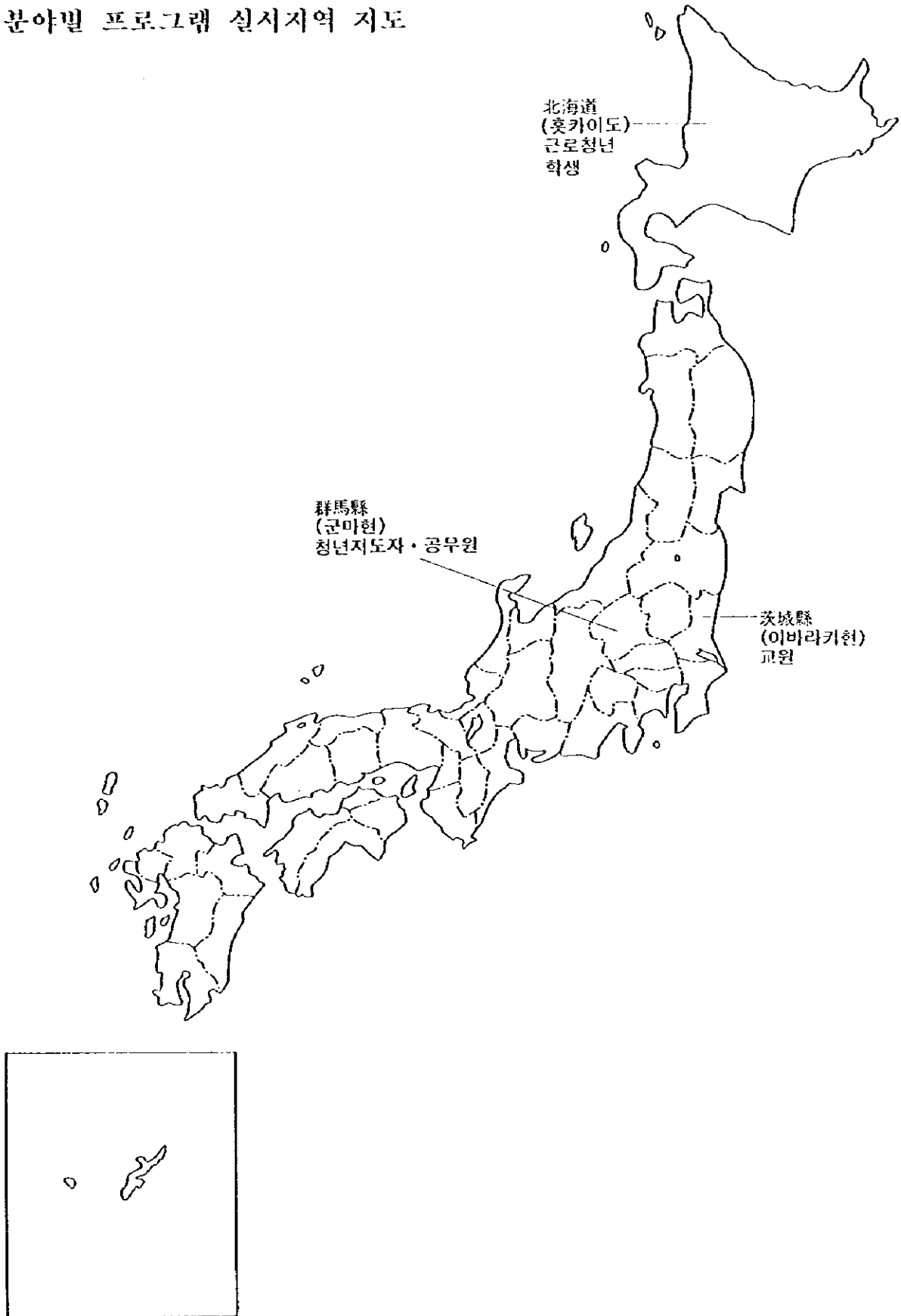
(수일간)	원자 오리엔테이션 프로그램	일본에서의 초청분야에 관한 프로그램의 설명 일본어 일상회화 학습 출국 수속에 관한 설명	
	공 통 프 로 그 램	일본의 실상에 관해서 정확한 이해를 촉진하기 위한 문화, 경제, 역사 등의 강의 및 시설견학	
(약한달간)	도내 분야별 프로그램	분야별 프로그램	초청분야의 강의와 관련시설의 시찰 및 연수
		합숙세미나 프로그램	일본 동세대 청년들과의 의견교환, 교류 마당
	지방 분야별 프로그램	분야별 프로그램	초청분야에 관한 강의와 관련시설의 시찰, 연수 및 지방 청년들과의 교류 프로그램
		홈스테이 프로그램	일본 가정생활 체험
	전 학 이 행 프 로 그 램	일본 문화, 전통, 역사 등을 이해하기 위한 견학여행	
	평 가 프 로 그 램	프로그램 실행에 대한 평가회	
귀국			

(2) 사업 실적

분 야 명	인원수	실시 협력단체	실시지역
청년지도자·공무원	24	일본 유스호스텔 협회	군마
근로청년(기술계)	25	근로 후생 협회	홋카이도
교 원(중학교)	25	국제 교류 서비스 협회	이바라키
학 생(이공계)	25	세계 청소년 교류 협회	홋카이도

*공통·평가프로그램은 일본국제협력 센터가 전교생을 대상으로 실시.

분야별 프로그램 실시지역 지도



2. 초청 청년 감상문

새로운 또 하나의 시작을 위한 평가의 시간을 준비하며

김 진 영
(청년지도사·공무원 그룹)

28일 간의 여름은 이제 카메라 필름 속으로, 저마다의 마음속으로 자리를 옮겨가고 있다. 저마다의 낯선 얼굴을 하고 어색하게 만났던 우리그룹 참가자 모두가 이젠 친숙한 모습으로 기억될 것이다. 가끔은 피곤하고 지쳐서, 가족이 그리워 힘들었지만 서로의 건강을 열심히 챙겨주고 돌려해주던 동료들 덕분에 이국에서의 한달을 무사히 보낼 수 있었다.

특히 일본친구들과 함께 한 합숙세미나는 아직도, 잠았던 3일이 아쉽다. 언어는 통하지 않아도 서로를 배려하고 배우려는 모습은 우리 모두에게 “젊음”이라는 공통분모가 있었기 때문에 가능했을 것이다. 28일은 결코 짧은 시간이 아니다. 지치고 힘들어서 프로그램에 적극적으로 참가하지 못했던 적도 분명 있었다.

이제 평가의 시간이다. 프로그램의 내용이나 주최측에 대한 평가 뿐만 아니라 참가자의 자세에 관한 반성의 시간도 잊지 말아야 한다. 이 모든 평가가 후일의 참가자와 주최측 모두를 위한 소중한 자료가 되기를 바라며 새로운 또 하나의 시작을 위한 “평가의 시간”을 준비하고 있다.

21세기 우정 계획 프로그램

임 경 준
(근로 청년 그룹)

일본에 대한 선입관은 좋지 않았으나 과학기술 청 강의나 사이타마 신도심 견학등을 통해 일본인의 치밀함과 장기적으로 계획을 세우는 점은 배워야 한다고 느꼈다.

합숙 세미나에서는 한국과 일본청년들이 서로 다른 것은 하나도 없다는 것을 알 수 있었다. 리코 공장 견학에서 느낀 것은 돈보다는 회사, 회사보다는 사원(사람)이 우선이라는 것이었다.

오비히로에서는 JC청년들의 따뜻한 배려와 계획적이고 섬세한 일정 덕분에 고향에 찾아온 느낌을 받을 정도였다. JC청년들과도 예전부터 잘 알고 지내던 친구가 아니었다 하는 생각이 들 정도였다.

히로시마에서는 말을 잃었다. 많은 생명을 앗아간 전쟁이라는 단어를 두번 다시는 입에 올리고 싶지 않은 심정으로 발길을 옮겼다. 전심으로 희생자들의 명복을 빈다.

앞으로 한일양국의 젊은이들이 손에 손을 잡고 진정한 동반자가 되기를 기대한다. 서로 그리기 위한 노력을 아끼지 말아야 한다.

짧은 만남 긴 여운

곽 미경
(교원 그룹)

여행을 하려는 나에게서는 걱정거리가 하나 있다. 그것은 요통이다. 환경 적응력이 부족하여 긴장하게 되고 불만에 시달리게 되는 불안울 가슴에 안고 이민 연수에 참가하였다. 걱정하던 나의 요통은 일본에 와서 계속되는 불면증으로 조금씩 아파오다가 드디어 홈스테이를 앞두고 하루 일정을 쉬게 하였다. 두렵기만 하던 홈스테이를 허리 아픔을 핑계로 가지 않으려고 했다. 그렇지만 평소 새로운 것에 대해 욕구가 강하던 나는 아픈 허리를 이끌고 홈스테이에 참여하였다. 내가 간 집은 일본에서는 보기 드물게 장인 장모를 모시고 사는 가정이었다. 그 집을 들어서는 순간 나의 집에 온 듯한 편안한 생각이 들어 마음이 놓였다. 들에서 꺾어나 놓은 현송이의 노란 꽃, 정돈된 집, 정성들어 만든 맛있는 음식. 이런 모든 것들이 사분 잉이, 일어, 한자를 통해서 날이 새도록 시모에 대하여 열심히 알려고 노력하게 했다.

내가 미술 선생이라는 이유로 여러 곳의 미술관과 아름다운 경관을 보여 주려는 노력을 아끼지 않으셨다.

3일 간의 홈스테이를 통해 언어만 다를 뿐 서로간에 지니고 있는 마음은 하나임을 확인할 수 있었다. 또한 심하던 요통은 사라지고 따뜻한 사랑만이 나의 허리에 남아 서로 헤어짐의 안타까운 눈물을 흘렸다.

난 마음으로 통할 수 있는 훌륭한 일본 친구를 알게 되었다. 서로를 이해 하고 진정한 눈길을 보낼 수 있었던 우리의 만남이 아주 미비한 것에 불과하지만 한일간의 우정의 다리를 더욱 튼튼하게 하는데 기여하길 진심으로 바란다.

일본인의 친절과 책임감

이 상환
(학생 그룹)

예전부터 일본이라 하면 “친절”이란 단어가 먼저 떠오른다. 직접 눈으로 일본을 보고 느낀 지금은 그 이유를 알 수 있을 것 같다.

내 눈에 비친 일본인의 특징은 시간에 대한 정확성과 일에 대한 책임감이었다. 친절은 책임을 다하고 있음을 보여주는 수단인 듯 하다. 운전사가 차에서 내려 짐을 내려주고 가게 점원이 작은것 하나에도 신경쓰며 도와주는 것은 일본인 특유의 책임감에서 나오는 것 같다. 자신이 할수 있는 최대한의 서비스를 제공하는 것이 결국은 친절이란 모습으로 다가오는 것이라 믿는다. 또한 이 책임감이 오늘의 선진국 일본을 만들어 낼 수 있었을 것이다. 이처럼 책임감에 바탕을 두고 신용을 높게 평가하는 일본의 모습은 분명 배울만하다고 생각한다.

3. 합숙세미나 참가 일본청년의 말

무궁화와 벚꽃의 만남

고지마 사치코
(공무원)

참가하기 전에는 「가깝고도 먼 나라 한국」이라는 이미지가 강해서 인이나 문화 차이 등 불안한 마음이 가득 했으나 한국청년들이 매우 상냥하고 적극적이어서 금방 친해질 수가 있었다. 3일동안 함께 보낸 그들이 「아주 즐거웠습니다」라고 말해주었을 때 나 자신 매우 기뻐했다.

짧은 시간이었으나 개인 개인의 교류를 깊이 할 수 있었고 한일청년들의 이번 만남은 서로의 나라를 이해하는 첫걸음이 되었다고 생각한다.

사람과의 만남에는 다양한 방법이 있겠지만 역시 직접 얼굴을 마주보면서 접하는 것이 무엇보다도 중요하다고 실감하였다. 평생의 보물이 될 아름다운 시간을 가질 수가 있었고 다음에 기회가 있다면 다시 꼭 참가하고 싶다.

멋진 만남에 전배!!!

오가와 테츠야
(회사원)

「전배!」

밥이 되면 어지없이 들려오는 간담회 시작하는 소리. 말이 통하지 않아도 서로를 알고 싶어 하는 마음은 자연스럽게 웃음소리를 만들고 노래소리가 되어 표출되었다. 서로를 이해하기에는 결코 충분한 시간이 아니었지만 친구가 되고 함께 미래를 만들어 가기 위한 큰 계기가 되었다.

합숙세미나라는 기회를 얻어서 우리들은 서로의 문화나 종교 직업관 등 다양하게 의견을 나눌 수 있었다. 그들의 높은 사고의식이나 일본을 배우고자 하는 진지한 자세에서 나역시 많은 것을 배웠다.

짧은 3일간이었으나 우리들은 한국에서의 재회를 약속하고 잠시동안의 이별을 하였다. 다음에 만날때 그들은 또 어떤 웃는 얼굴을 보여 줄까?

이웃나라 친구에게 배우는 “虚往実帰”

이치노세 신이치
(수영코치)

한국과 일본. 뒷맛은가 하면 눈에 뜨이게 다른 나라. 그래도 역시 닮았다는 생각이 드는 이웃나라 한국. 이번 합숙세미나를 즐거운 마음으로 기다리고 있었다.

서로를 깊이 이해하기에는 너무 짧은 시간이었지만 그들과 함께 지낸후 많은 것들이 인상에 남아 있었다. 특히 나는 교원그룹에 속해 있던 관계로 그들의 교육에 대한 자세라든가 열의를 강하게

느낄 수 있었다. 서투른 교육자인 나로서는 그들이 교육현장을 보며 날카로운 시각을 잊지않는 마음에 접할 수 있었던 좋은 기회였다. 자유시간에는 수구를 비롯하여 스포츠 이야기로 시간가는 줄 몰랐다. 그리고 마지막 밤에는 신주쿠에 있는 한국 음식점에 갔었는데 일본사람으로는 나혼자라 한국 청년 모두가 한국식 식사예의범절을 가르쳐 주는 등 최고의 시간을 보낼 수 있었다.

새로운 역사를 위하여

스다 메구미
(대학원생)

2박3일. 짧은 것 같으면서도 긴시간... 라고는 할수 없다. 정말 짧은 시간이었다. 그러나 우리들의 역사를 시각함에 있어 멋진 개막작이 되었다고 생각한다.

마지막 밤에는 이렇게 하면 친구가 될 수 있는가 라는 화제도 이야기꽃을 피웠다. 서로에게 무엇인가 선입관을 가지고 있는데 그것이 무엇인가 하는 얘기로부터 적나라한 이야기까지 오랫동안 이는 친구끼리 숨김없이 속마음을 털어놓는 것처럼 밝은 이야기를 하는 동안 어느새 아침이 되어 있었다. 우리들이 아무리 저항해도 막지 못하는 이 세상의 큰 흐름을 걱정하고 그래도 우리와 같은 존재가 있지 않는가고 희망을 함께 하기도 하였다.

이제부터 우리들은 서로가 속해 있는 사회에서 책임을 짊어질 한개인이 된다. 그 초입에 서있는 내게 이번 만남은 커다란 에너지가 되었다.

4. 홈스테이 가정이 느낀 인상

처음보는 축제용 가마를 사진에

이치즈카 마모루
(군마현)

저는 한국말을 조금 할 수 있기 때문에 지금까지 네명의 한국인 대학생들을 맞이한 적이 있다. 이번에 우리집에 머문 사람은 부산시청에서 가정복지를 담당하고 있는 김효경이라는 조용한 여성이었다.

이틀째 되던 날 내가 소속하고 있는 군마(群馬) 한글 동아리 회원 집에 홈스테이하고 있던 한국 청년들과 함께 미나카미(水上) 온천에 있는 노천 온천과 근처의 유리 공장을 구경했다. 이 날은 이웃도시인 후지오카(藤岡) 시에서 여름 축제를 하고 있어서 밤에는 별들과 함께 축제를 보러 갔다. 김 효경씨는 처음 보는 가마나 축제용으로 장식된 수레를 열심히 사진에 담고 있었다.

사흘째에는 후지오카의 특산물 기와집을 방문하고 다카사키(高崎) 시내구경과 쇼링을 도와 주었다.

덧붙이는 말. 아직 소식이 없는 김효경씨의 편지를 기다리고 있음.

한숨놓은 홈스테이

다카하시 유우코
(이비라키현)

서로 상대방의 말을 못한다는 불안감을 안고 이번 홈스테이는 시작되었다. 그러나 처음 만났을 때부터 김현숙씨는 배려심이 깊고 틀수한 일품까지 느끼게 해 주는 분이였다.

그녀는 음악과 미술교사여서 그 분야에 관계되는 것들은 흥미있게 천천히 시간을 들여 견학했다. 그녀와 의사소통이 조금더 잘 되었다면 더 많은 것에 대해서 이야기할 수 있었을텐데 라는 아쉬움이 남았다. 다행히 말하고는 나이 차이가 있음에도 불구하고 마치 친구처럼 이야기를 나누면서 서로 웃곤 하였다. 물론 사진을 보면서 단어만으로 하는 대화이긴 했지만.

그녀가 우리 집에서 머무는 동안 그런대로 즐겁게 지내고 간 것 같아 다행이었다.

예의에 대해 다시 생각하게 해 준 집에 감사

우라베 노부오미
(홋카이도)

집 안에 들어올 때는 신발을 강리해 놓고 들어왔다. 그리고 파크골프에 갔을때는 주위사람들에게 만지락을 건네준 다음 자기것을 챙겼다. 이처럼 상대 다음에 자기자신이라는 행동은 우리집에 머무는 이틀동안 한국청년 이철환씨가 자주 보여준 모습이였다.

밤 9시경 이철환씨가 바깥으로 나간적이 있었다.

별이라도 보려고 그러냐 했더니 담배 피우느라 나갔다고 해서 깜짝 놀랐다. 일부러 바깥에 나가자 말고 방 안에서 피워도 된다고 했더니 「한국에서는 미혼살 될때까지 방 안에서나 부모님 앞에서 담배를 안 피운다」고 했다. 나는 다시 한번 놀랐다.

그와 함께 홋카이도의 옛민요 「소란부시」와 젊은이들의 「요사코이소란」이라는 노래를 테이프로 들었다. 한국 젊은이들도 요즘엔 옛날 노래를 잘 안 부른다고 하웠다. 그러나 이 한국청년은 옛 한국과 지금의 한국을 예의라는 것을 통해 이어나갈 것이라고 생각했다.

실적자료

1. 대한민국 청년 초청사업 실적 일람표

●1994년도(100명)

	인수	실시협력단체	실시지역	JICA지부	지방협력단체
청년지도자	25	일본유스호스텔협회	오키나와	오키나와	오키나와현 유스호스텔협회
교원	25	청년해외협력협회	홋카이도	홋카이도	홋카이도 청년해외협력협회 동시부
근로청년	25	근로후생협회	사이타마	칸토오	아게오시 국제교류추진위원회
학생	25	세계청소년교류협회	니이가타	칸토오	니이가타현 세계청소년우호회

●1995년도(98명)

	인수	실시협력단체	실시지역	JICA지부	지방협력단체
청년지도자·공무원	25	국제교류서비스협회	니이가타	칸토오	(재)니이가타현 국제교류협회
근로청년	23	근로후생협회	사이타마	칸토오	아게오시 국제교류추진위원회
교원	25	일본유스호스텔협회	후쿠이	호쿠리쿠	(재)후쿠이현 국제교류협회
학생	25	세계청소년교류협회	아키타	도호호쿠	아키타현 세계청소년우호회

●1996년도(100명)

	인수	실시협력단체	실시지역	JICA지부	지방협력단체
청년지도자·공무원	25	일본유스호스텔협회	에히메	시코쿠	(재)에히메현 국제교류협회
근로청년	25	근로후생협회	시가	칸사이	시가현 청년단체연합회
교원	25	국제교류서비스협회	이바라키	츠클라국제센터	1996년도 이바라키현 외국청년 초청사업실행위원회
학생	25	세계청소년교류협회	아키타	도호호쿠	(재)아키타현 국제교류협회

●1997년도(97명)

	인수	실시협력단체	실시지역	JICA지부	지방협력단체
청년지도자·공무원	25	일본유스호스텔협회	나가사키	큐슈	나가사키현 유스호스텔협회
근로청년	24	근로후생협회	홋카이도	홋카이도	(사)타키가와 국제교류협회
교원	23	세계청소년교류협회	이바라키	츠클라국제센터	이바라키현 외국청년초청사업 실행위원회
학생	25	청년해외협력협회	쿠마모토	큐슈	쿠마모토현 청년해외협력협회

●1998년도(99명)

	인수	실시협력단체	실시지역	JICA지부	지방협력단체
청년지도자·공무원	24	일본유스호스텔협회	군마	칸토오	(재)군마현 국제교류협회
근로청년(기술계)	25	근로후생협회	홋카이도	홋카이도	(사)오비히로 청년회의소
교원(중학교)	25	국제교류서비스협회	이바라키	칸토오	이바라키현 외국청년초청사업 실행위원회
학생(이공계)	25	세계청소년교류협회	홋카이도	홋카이도	(사)타키가와시 국제교류협회

2. 1998년도 청년초청사업 실적 일람표

실시기간	국명	분야명	인수	실시 협력 단체	실시현
5월 6일 6월 2일 1진 49명	말레이시아 말레이시아	경제A(경제경영) 교육	24 25	청소년육성국민회의 일본유스호스텔협회	시가 홋카이도
5월 13일 6월 9일 2진 66명	인도네시아 인도네시아 인도네시아	경제A 경제B 교육	20 24 22	국제교류서비스협회 근로후생협회 청년해외협력협회	도치기 군마 야마가타
5월 20일 6월 16일 3진 34명	싱가폴 싱가폴	경제A 경제B	17 17	일본경제청년협의회 근로후생협회	오사카 홋카이도
5월 20일 6월 16일 4진 100명	중국 중국 중국 중국	청년지도자 경제청년 공무원 교원	25 25 25 25	청소년육성국민회의 유스워커능력개발협회 세계청소년교류협회 국제교류서비스협회	오키나와 이시카와 도쿠시마 도야마
5월 27일 6월 23일 5진 111명	아세안혼성 아세안혼성 아세안혼성 아세안혼성	환경보전 사회복지 보건의료 행정	29 28 30 24	일본경제청년협의회 삿포로국제플라자 국제간호교류협회 청소년육성국민회의	홋카이도 홋카이도 군마 후쿠오카
6월 10일 7월 7일 6진 35명	브루나이 라오스	사회개발 농업관계공무원	15 20	일본국제생활체협협회 고치현 국제교류협회	히로시마 고치
6월 25일 7월 22일 7진 39명	싱가폴 싱가폴	교육 사회개발	20 19	일본유스호스텔협회 유스워커능력개발협회	가가와 오키나와
7월 1일 7월 28일 8진 99명	한국 한국 한국 한국	청년지도자·공무원 근로청년(기술계) 교원(중학교) 학생(이공계)	24 25 25 25	일본유스호스텔협회 근로후생협회 국제교류서비스협회 세계청소년교류협회	군마 홋카이도 이바라키 홋카이도
7월 8일 8월 4일 9진 112명	말레이시아 말레이시아 말레이시아 인도네시아 인도네시아	경제B(중소기업) 농업개발 과학기술개발 농업 사회개발	24 15 24 25 24	일본유스호스텔협회 청년해외협력협회 도요카와시 국제교류협회 이와테현 국제교류협회 청소년육성국민회의	사이타마 오이타 아이치 이와테 구마모토
7월 15일 8월 11일 10진 50명	베트남 베트남	경제 농업	25 25	유스워커능력개발협회 청년해외협력협회	효고 와카야마
7월 15일 8월 11일 11진 100명	중국 중국 중국 중국	산업기반성비 경제개발 지역진흥 인재육성	25 25 25 25	일본국제협력센터 근로후생협회 세계청소년교류협회 유스워커능력개발협회	오카야마 미에 나가사키 홋카이도
8월 19일 9월 15일 12진 69명	태국 태국 태국	경제A 경제B 농업	20 24 25	일본경제청년협의회 근로후생협회 일본청년단협의회	가고시마 아이치 오카야마

실시기간	국명	분야명	인수	실시 협력 단체	실사현
8월19일 9월15일 13진 45명	필리핀 필리핀	경제 A 농업	20 25	일본국제협력센터 청년해외협력협회	가가와 이시카와
8월26일 9월22일 14진 29명	파푸아뉴기니 파푸아뉴기니	공무원 교원	10 19	세계청소년교류협회 청년해외협력협회	니가타 시즈오카
9월23일 10월20일 15진 30명	부탄/몰디브 네팔 스리랑카	교육(초중고교원) 교육(이수과교원) 교육(초중고교원)	10 10 10	국제교류서비스협회 일본국제협력센터 세계청소년교류협회	사가 나가노 시마네
10월7일 11월3일 20명	사우디아라비아	교육(초중고교원)	20	청년해외협력협회	후쿠시마
10월14일 11월10일 16진 92명	아프리카영어권 아프리카불어권 아프리카영어권 아프리카불어권	여성교원 여성교원 이수과교원 이수과교원	21 24 24 23	청소년육성국민회의 세계청소년교류협회 오사카부 국제교류재단 청년해외협력협회	후쿠이 시즈오카 오사카 아오모리
11월11일 12월8일 17진 59명	태평양혼성 태평양혼성 피지	공무원 교원 공무원	24 23 12	일본경제청년협의회 일본국제생활체험협회 국제교류서비스협회	도쿠시마 에히메 후쿠오카
11월18일 12월15일 18진 60명	미얀마 방글라데시 파키스탄	교육 공무원(복지 WID) 여성초중고교원	20 20 20	일본국제협력센터 청년해외협력협회 일본유스호스텔협회	아키타 교토 미야기
11월25일 12월22일 19진 58명	인도 캄보디아	교육(이수과교원) 경제	28 30	세계청소년교류협회 청소년육성국민회의	기후 효고
11월25일 12월22일 20진 109명	아세안혼성 아세안혼성 아세안혼성 중앙아시아혼성	교육 경제 1 경제 2 경제	25 29 30 25	아이치현 국제교류협회 일본경제청년협의회 근로후생협회 청소년육성국민회의	아이치 돗토리 야마구치 후카이도
1월13일 2월9일 21진 97명	태국 태국 베트남 베트남	교육 사회개발 공무원 교육	22 25 25 25	일본국제협력센터 국제교류서비스협회 일본유스호스텔협회 유스워킹능력개발협회	야마나시 오사카 후쿠시마 미야자키
1월13일 2월9일 22진 80명	필리핀 필리핀 필리핀 몽골	교육 사회개발 경제 B 근로청년	22 26 22 10	일본국제생활체험협회 일본유스호스텔협회 청소년육성국민회의 세계청소년교류협회	에히메 이시카와 치바 야마구치
1월20일 2월16일 23진 49명	중남미혼성 중남미혼성	사회복지 초중고교원	22 27	세계청소년교류협회 청년해외협력협회	오카야마 오키나와
합계	71개 그룹 110개국·지역 1,592명	구아제안 6개국(741), 미얀마(20), 태평양14개국·지역(88), 중국(200), 한국(99), 남서아시아 7개국(98), 몽골(10), 아프리카49개국(92), 인도지나 3개국(150), 중남미21개국(49), 사우디아라비아(20), 중앙아시아 5개국(25)			

青年招へい事業 一韓国一[交流レポート](1998)

청년 초청 사업 一한국一[교류 보고서](1998)

平成11年3月31日

発行 国際協力事業団研修事業部青年招へい課

발행 Youth Invitation Division
Training Affairs Department
Japan International Cooperation Agency

〒151-8558 東京都渋谷区代々木2丁目1-1

新宿マインズタワー

주소 SHINJUKU MAYNDS TOWER
2-1-1, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo 151-8558 Japan
Phone (03) 5352-5101~3

編集 (財)日本国際協力センター 国際交流部

편집 Japan International Cooperation Center
International Exchanges Department

〒163-0489 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル15F

주소 Shinjuku Mitsui Bldg., 15F,
2-1-1, Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163-0489 Japan
Phone (03) 5322-2361

無断転載を禁じます。

무단전재를 금함.



Japan
International
Cooperation
Agency

国際協力事業団